

6) その他

雑魚対象（シズ、グチ等）の操業は瀬の無いところで行う。

(ハ) ひき廻し網類

59 エビこぎ網〈五島編〉

調査地 奈留町

1) 漁具

(1) 網地展開図

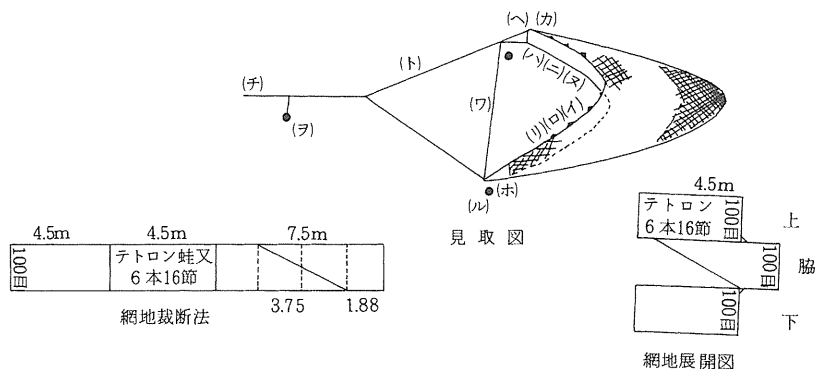


図59 見取図および網地展開図

(2) 漁具仕様

表59 仕様表

(イ) 網類

符号	名称	材質	太さ	長さ	本数	備考
(イ)	浮子網	クレポリ	6mm	3.5m	1本	
(ロ)	クツワ網	クレモナ	80本	〃	〃	カンズリ, 糸の使用量は1~2割増
(ハ)	沈子網	〃	7~9mm	3.8m	〃	
(ニ)	クツワ網	〃	2mm	〃	〃	カンズリ
(ホ)	筋網	〃	80本	1m	〃	袖先に2折りに使用
(ハ)	股網 1	〃	9mm	3.2m	〃	上1.5m, 下1.7m
(ト)	股網 2	〃	〃	6m	〃	2折りで使用
(チ)	ひき網	〃	〃	100m	〃	40~75m使用

(ロ) その他

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(リ)	浮子	合成樹脂	キビナゴ刺網用	適宜	
(ヌ)	沈子 1	鉛		23g	沈子網に殆どすき間なく取付ける。
(ル)	沈子 2	陶器		1kg	2個
(ヲ)	千貫	自然石		15~20kg	1個
(ヅ)	張竹	竹		2.3m	1本
(ケ)	手木	木		40cm	〃

2) 漁法

日没後出港し、共同漁業権内の入江の内外で操業する。操業は船尾部から微速で投網し、まっすぐに往復とも20分間ぐらい網をひく。揚網はエンジンを止め人力でひき揚げる。1晩3~4回操業する。

3) 使用漁船および乗組員

漁船は2~3トン、20馬力で、乗組員は1人である。

4) 漁期・漁場

漁期は5~6月で、漁場は共同漁業権内の水深8~25mの砂地である。

5) 漁獲物

タイ、イサキ釣を対象とするエビを1晩5合から2升漁獲する。

60 エビこぎ網〈五島編〉

調査地 福江市奥浦

1) 漁具

(1) 網地展開図

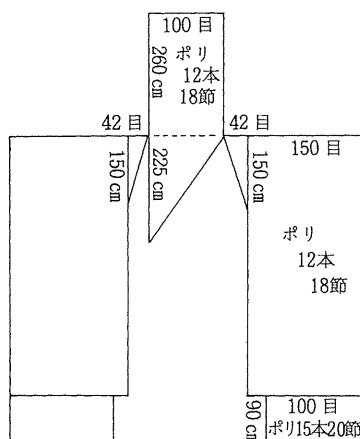


図60 網地展開図

(2) 漁具仕様

表60 仕様表

(イ) 網類

名称	材質	太さ	長さ	本数	備考
浮子網	クレポリ	6～7mm	6m	1本	
クツワ網	クレモナ	2子, 80本	〃	〃	カンズリ(目通し), 糸の使用量は1～2割増
沈子網	〃	15mm	7.5m	〃	
クツワ網	〃	5mm	〃	〃	カンズリ
筋網	〃	2子, 100本	0.8m	〃	袖先に2折りで使用。10目毎にとめる。
股網 1	〃	9mm	1.5m	2本	袖先の手木に2折りで使用。
股網 2	〃	12mm	12m	1本	股網1に2折りで使用。
ひき網	〃	〃	120m	〃	45～80m使用

(ロ) その他

名称	材質	規格・寸法	数量	備考
浮子	合成樹脂	190×35×25mm	13個	浮力約70g
沈子 1	鉛	375g	10個	両袖先に5個ずつ
沈子 2	陶器	225g	34個	ミト部(3.3m) 10個, 袖部(片袖21m)に12個でミト部には荒く入れる。
千貫	自然石	15～20kg	1個	
張竹	竹	5cm径, 4.5m	1本	
手木	木	30cm	2本	

2) 漁法

日没後出港し, 近くの共同漁業権内で操業する。操業は潮にのせて微速で船尾部から投網し, 30分ぐらいひく。1日4, 5回操業する。

3) 使用漁船および乗組員

使用漁船は4トン, 35馬力で, 乗組員は1人である。

4) 漁期・漁場

漁期は3～12月で, 漁場は沿岸の共同漁業権内の30m以浅の砂地のところである。

5) 漁獲物

対象は一本釣用の餌エビで, 1日の操業で3～4日分の活エビを確保する。

一本釣の活エビ使用量はタイ主体の漁獲の時は100尾, 小ものが多い時は200～300尾である。エビは6～7月が最も多く, しかも大型であるが, 8月になると少なくなり9月ごろから子エビが多くなる。

61 小型底びき網〈北松編〉

調査地 松浦市星鹿

沿革 昭和30年(1955年)頃,大村湾の餌こぎ網を導入し,昭和39年(1964年)に張竹式として許可を受けている。

1) 漁具

(1) 見取図

- (イ)ひき網 (ロ)せんがん (ハ)張竹 (ニ)手木
- (ホ)腕石 (ヘ)股網(沈子方チェーンつき)
- (ト)袖網 (チ)天井網 (リ)浮子網 (ス)沈子網
- (ル)浮子 (ヲ)グランドロープ
- (カ)かえし網 (ク)袋網 (コ)サルカン

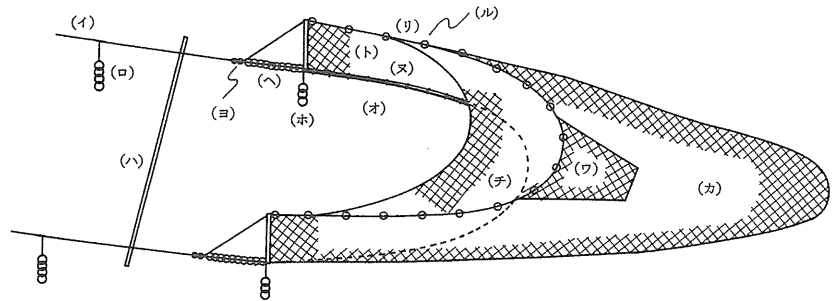


図61-1 一般構成

(2) 展開図

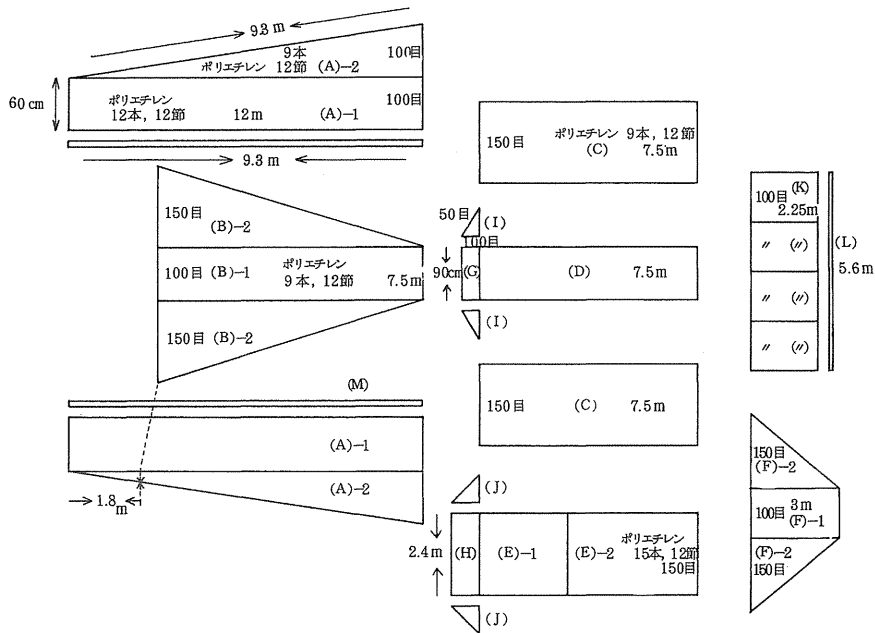


図61-2 展開図

(3) 漁具仕様

表61 仕様表

(イ) 網地

符号	名称	俗称	材質	太さ (本)	目合 (節)	掛目 (目)	長さ (m)	反数 (反)	備考
(A)-1	袖網	袖網	ポリエチレン	12	12	100	12	2	
(A)-2	〃	〃	〃	9	12	1/100	12	2	
(B)-1	天井網	幕網	〃	9	12	100	7.5	1	
(B)-2	〃	〃	〃	9	12	1/150	7.5	2	
(C)	袋網脇網	側網	〃	9	12	150	7.5	2	
(D)	〃上網	上網	〃	9	12	100	7.5	1	
(E)-1	〃底網	底網	〃	30	10	150	3	1	
(E)-2	〃	〃	〃	15	12	150	4.5	2	
(F)-1	かえし	もどらず	〃	9	12	100	3	1	} 下梯100目を底網50目に 取り付け
(F)-2	〃	〃	〃	9	12	1/150	3	2	
(G)	とりかけ	舌網	〃	15	12	100	0.6	1	
(H)	どろこし	泥抜網	クレモナ	150	3.5	35	0.9	1	
(I)	とりかけ 三角網	三角網	ポリエチレン	15	12	50	0.6	1	

符 号	名 称	俗 称	材 質	太さ (本)	目合 (節)	掛目 (目)	長さ (m)	反数 (反)	備 考
(J)	どろこし 三角網	三 角 網	ポリエチレン	15	12	25	0.9	1	
(K)	魚 捕	魚 捕 網	〃	15	13	100	2.3	4	
(L)		ヒモ通し	〃	40	7	3	10	1	
(M)	裾 縁 網	裾 掛 網	〃	40	7	10	12	2	

(ロ) 網類・その他

名 称	俗 称	材 質	規格・寸法	長さ・数量	備 考
ひき網	ひき網	ダイヤロン	18mm		水深の2.5～3.0倍にする
浮子網	浮 網	ポリエチレン	12mm		
沈子網	底 網	クレモナ	15mm		
グランドロープ	ストランド	クレモナ	15mm		12mmチェーン、9mmチェーン、クレモナロープ、 9mmチェーン、12mmチェーンの順に連結し、古網 でセキまきして沈子網に添え付ける。
〃	〃	鉄(チェーン)	9mm		
〃	〃	〃	12mm		
目通し糸	ク ツ ワ	クレモナ	120本		1クツワに7～8目を目通しする
筋	天 井 筋	ポリエチレン	9mm		
浮子	浮 子	合成浮子	F-23	22個	片袖10個づつ、中央部2個とりつける。
腕石		鉄(チェーン)	15kg	2個	手木の下に取りつける。
せんがん	せんがん	〃	30kg	2個	ひき網に取りつける。
張竹	ビ ー ム	強化プラスチック	φ7mm ×8m	1本	手木より1.5mのところにとりつける。
手木	手 木	ステンレスパイプ	φ38mm ×0.6m	2本	
オモリ	オモリ	鉄(チェーン)	15mm	1m	股網の沈子方にとりつける。
股網	股 網	ダイヤロン	18mm	1.85m ×2本	浮子方0.85m、沈子方1mにする。
サルカン	サルカン	ステンレス		2個	股網とひき網の連結部

2) 漁 法

日没より日の出までの夜間操業である。通常1.5時間びきを4回行う。

3) 使用漁船および乗組員

4.85トン、20馬力、2人乗組み。

4) 漁期・漁場

漁期は3月1日より12月31日まで。

伊万里湾内では、5～8月にはエビ類（クマエビ、ヨシエビ、アカエビ、トラエビなど）が主漁獲物で、魚類ではキス（夏～秋）、カレイ類（秋～冬）、甲イカ（秋）、イトヨリ（夏～秋）などが漁獲される。

62 アゴ（トビウオ）船びき網〈北松編〉

調査地 平戸市平戸

沿革 当地では昔から北西の季節風によって沿岸に来遊するトビウオをまき網によって漁獲していたが、この操業は多くの人手を必要とするので昭和46年（1971年）頃から中止された。翌年、隣接する生月で二そう船びき網によりトビウオを大漁したことを聞き調査を行ったところ、その構造がサヨリ一そう船びき網に類似していたので、先進県である千葉県よりサヨリ網を導入し操業を行った。しかし、この網では沈降が悪く漁獲が思わしくなかったため、種々改良を加え昭和56年（1981年）当時のものとなった。

1) 漁具

(1) 漁具構成および網地展開図

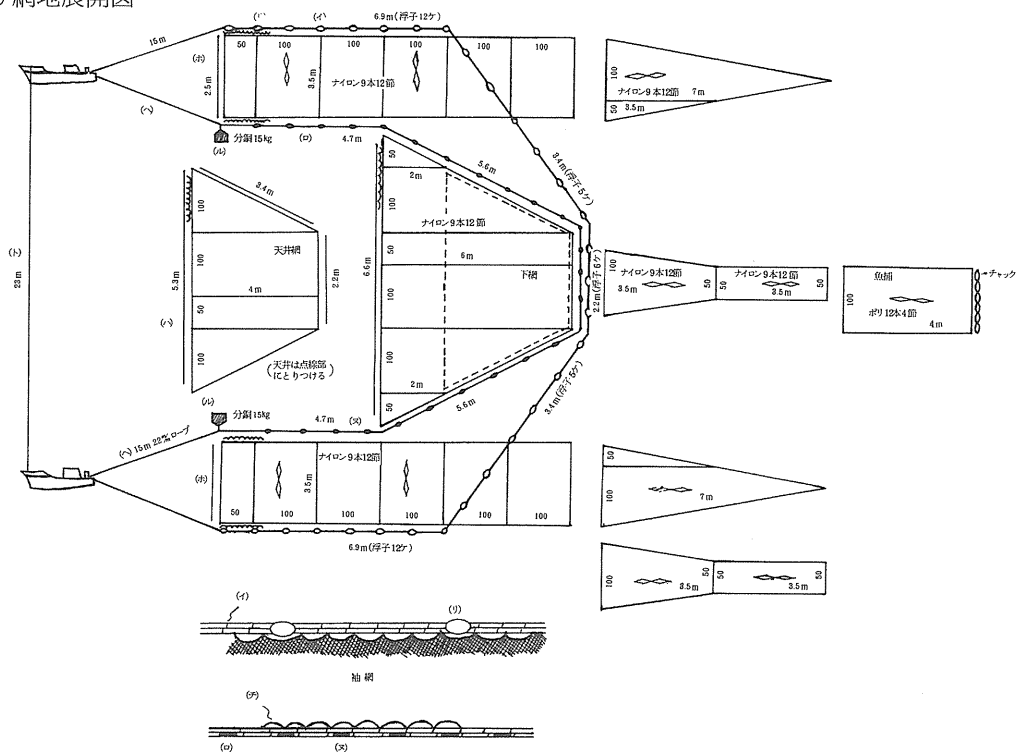


図62 一般構成および網地展開図

(2) 漁具仕様

表62 仕様表

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(イ)	浮子網	クレポリ	3分 22.8m	2	
(ロ)	沈子網	〃	〃 〃	2	
(ハ)	天井網	〃	〃 5.3m	1	
(ニ)	袖筋網	〃	〃 2.5m	2	その他筋網も混然の3分を使用する
(ホ)	股網	ポリエチレン	22mm 30m	2	15mで折り返して使用
(ヘ)	張網	クレモナ	5～6分 23m	1	
(ト)	目通し糸	スパンナイロン	3mm	2	
(チ)	浮子	合成樹脂	フロートップ(0-60-1)	40	
(リ)	沈子	鉛	250g, 500g	240	250g 200個, 500g 40個
(ス)	分銅	鉄	15kg	2	

2) 漁法

漁船2隻を用いて投網と同時に船首に張網を取り、ひき網が張ってから速力を増し両船を平行にして全速で曳網する。曳網は浮子が水面下10cm程度に維持されるようにし、風波、潮を出来る限り船首方向より受けるようにする。魚が溜ると両船は揚網しながら接舷し、魚捕を一方の船に引き揚げる。操業は日の出から日没まで繰り返し行い、盛期には1日数10回操業する。漁獲は北風の強い日の朝・夕がよい。10月から3月まではサヨリ漁に変わり、この網の沈子を60～80kgに減らして1隻で操業する。

3) 使用漁船および乗組員

使用漁船は5トン未満で、乗組員は2隻で3～4名である。昭和56年(1981年)当時、当地区の着業統数は40統である。

4) 漁期・漁場

漁期は8月下旬より10月上旬までで、盛期は9月を中心とした前後40日位である。漁場は平戸瀬戸周辺である。

5) 漁獲物

漁獲物はトビウオ(地方名アゴ)で、多い時には1回の操業で50箱(15kg/箱)位漁獲する。

63 トビウオ船びき網〈北松編〉

調査地 大島村的山

沿革 平戸島より導入し改良されたもので、昭和48年（1973年）以降に普及したとみられる。

1) 漁具

(1) 見取図および網地展開図

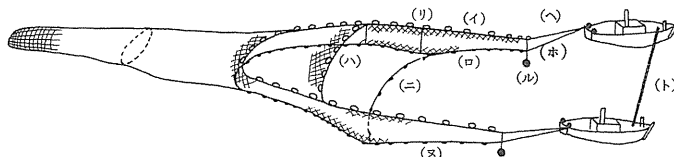


図63-1 操業見取図

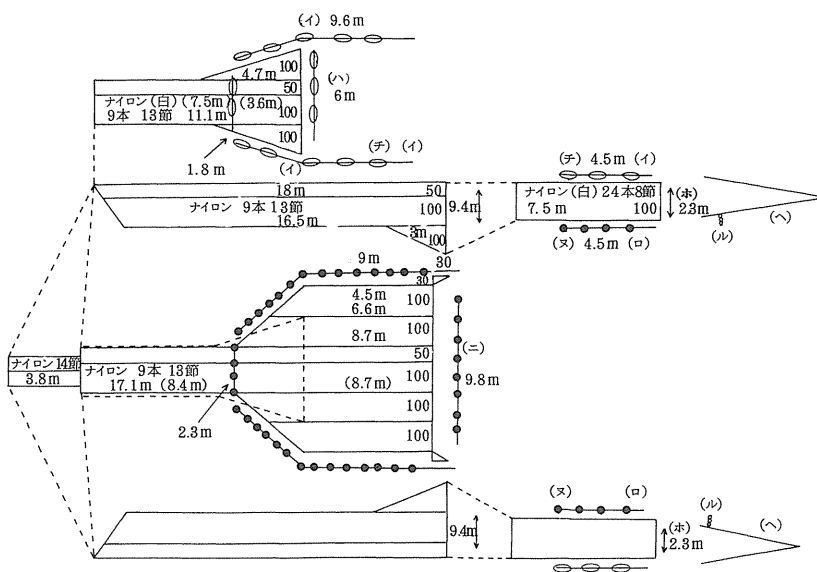


図63-2 一般構成および網地展開図

(2) 網類の漁具仕様

表63 網類仕様表

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(イ)	浮子網	ポリエチレン	21mm 30m	1	
(ロ)	沈子網	〃	〃 29.3m	1	
(ハ)	天井網	〃	〃 6m	1	
(ニ)	ミトグチ網	〃	〃 9.8m	1	
(ホ)	袖筋網	〃	9mm 2.3m	2	
(ヘ)	股網	〃	21mm 30m	2	15mで2つ折りにする
(ト)	張網	〃	18mm 23m	1	
(チ)	目通し糸	スパンナイロン	3mm	2	
(リ)	浮子	合成樹脂	FLOTON-K7N(浮力1,400g)	72	1.5mに3個つける
(ル)	沈子	鉛	60匁	208	1.5mに8個つける
(ル)	チェーン	鉄	10kg	2	

2) 漁法

62 平戸のアゴ船びき網と同じ。

3) 使用漁船および乗組員

5トン、39馬力の漁船2隻を使用し、乗組員は各船2名ずつである。